

建設業の役割理解して

平田建設 高校生職場体験に協力

【帯広発】(株)平田建設(土幌、長谷川雅毅社長)は7日から3日間、土幌高校のインターシップに協力した。生徒2人が7現場を見学。地域の暮らしを支える建設業の役割について理解を深め、進路選択に向けて目指す仕事のイメージを膨らませていた。

同社は、工学系以外の学校からも採用を行うため、地元土幌高校のインターシップに積極的に協力している。

今回は、アグリビジネス科2年生の及川真斗君と宮田遵君の2人が参加。3日間を通して、「273号土幌町三国トンネル補修

ほか一連」(帯広開建発注)、「242号陸別町第1号橋補修ほか一連」(帯広開建発注)、「畑地帯育成土幌南部第2ほか1地区71工区」(十勝総合振興局発注)など現場7カ所を見学した。

初日に訪れた土幌南部第2ほか1地区では、現場事務所で担当者から農業土木工事の作業内容の説明を受けた。より良い畑をつくるため、雨水を排水する暗渠排水や畑の勾配を修正する

不陸整正などが行われている現場を訪問。畑から取り除かれた石が山のように積

み上がって行く様子を間近で見学した。生徒たちは「建設業は、農家の人たちにとても大切な仕事だと分かった」「普段学校で学んでいる農業が建設業とつながっていることを実感した」などと話していた。



職員から施工内容の説明を受ける生徒たち